

民間型ADR

民間調停の事例 1

利害関係を有する第三者も同席

- 住宅改修工事について、下請業者が元請業者から約束していた代金の支払いを受けられず、住宅の建築を中断してしまった。元請業者の資金繰りが苦しかった。工事の完成がされずに困っている施主と**三すくみ**の状態になっていた。施主を含めて話し合った結果、施主が残金を直接下請に支払うなどの約束で合意。

民間調停の事例2

事前・事後のフォローが親切

- 不法行為の損害賠償の案件。請求を受けている側の20代半ば青年は、ひきこもりだった。調停人が親身に話を聴いている内に、心を開き、今後の生活の立て直しも話し合った。最終的に、ひきこもり者への**支援団体への参加**することが決まり、彼の両親も喜んだ。

民間調停の事例3

裁判では要求しづらい請求が認められた

- 不幸なトラブルで、職場で事故死する事件があった。亡くなった当人の妻が会社を相手に調停（弁護士会あっせん）。会社の中で、当人の名誉を顕彰する合意を行った。（裁判で「顕彰請求権」は認めにくい。）

民間調停の事例4

創造的な解決がなされた

- 長年建物の1階を店舗付きの借家として貸し出していたが、2階に住む大家が高齢になり、建物を改築してエレベーターを設置したいので、1階の借家人に明け渡しを要求していた。「ひよんなことから、階段付設式昇降機の話が出て」、その方向で解決された。